



図書館員が選ぶ この一冊

2

『リーチ先生』

原田マハ著 集英社



我孫子にゆかりのあるイギリス人の陶芸家、バーナード・リーチを描いた長編小説。憧れ続けていた日本の文化を学びに来日した、22歳のリーチ。弟子の沖亀乃介・高市親子の目を通し、後の民芸運動の中心となる柳宗悦をはじめとする白樺派の文人や芸術家たちとの交流が描かれている。

アビスタの程近く、手賀沼を望む高台にある柳宗悦邸内に築窯し、失敗しながらも陶芸に打ち込んでいく姿など、陶芸家リーチの我孫子での生活を重要な要素として描いた感動作。今年の新田次郎文学賞を受賞。久しぶりに胸が熱くなる小説と出会えた。